

史料 7

孵化事業の第一線に活躍した人々

菊 地 覚 助

鮭鱒孵化事業技術者は、民間時代でも孵化場設置と共に主として千歳孵化場で事業期間中に実地の指導を受けた。今之等の技術者はどうして居られるであろうか、古い記録は火災に逢つたので、随分各地に照合して見たが中々わからない、同時に講習を受けた人々でも思い出せないというもあつたりで、当時自分が下手な写真を記念として写したものを所持しておつた人があつたので、思いがけなく当時の潑刺たる青年の姿を見ることが出来たのもあつた。自分の関係した時代の写真は手元にあつたが、本場に置いて焼いてしまったので前記の仕末である。而して本道に於ける最初の孵化場たる渡島国茂辺地孵化場の如きは専ら農商務省の関沢明清氏の指導に則りたるが地元の松田万平とその息子松田万治の両氏が孵化技術に専念された。明治21年千歳孵化場の出現によつて道南の大孵化場たる八雲孵化場の技術者渡辺子之次郎氏は千歳孵化場で実地の指導を受け、帰来大いに部下の養成につとめ、場員土岐足彦氏は知内孵化場の新設に伴い此処に進出し、又帯広孵化場の新設に當つては当時千歳孵化場員たりし鴨川濟及其の養嗣子豊の両氏は相携いて之に赴き、又鴨川氏の令弟羽生銀藏

氏は根室国内に勃興せる西別以下の孵化場の技術面の指導に貢献したる処甚だ大である。又歴史的に最も古い噴火湾の壮瞥孵化場技術員常盤次郎氏は元渡島七重試験場の常備人であつたが、同孵化場の設立により退いて千歳孵化場で孵化技術を習得し、その発達に専念したが、明治43年洞爺湖畔有珠岳の山系、円山の大噴火によりて壮瞥孵化場の用水が悪変し、遂に廢止となつた。筆者も亦災厄に逢つた1人として感無量のものがある。浜益川の支流右岸に湧水地があり、此処に孵化場が新設されると共に之れに當つた技術者は、千歳孵化場で修得された長谷川清七氏で、熱心なる氏によつて漸次その成績も挙がつたが、或事情の爲め中断され、其の後も周囲の開発によりて水量が減退し、再起不能となり、附近に適地を求めたがあまり香んばしくなかつた。石狩漁業組合は旭川近郊神楽村に孵化場を設置し、この技術者として高橋常次郎氏担当したが、これ又アツケなく廢止となつたが、同氏は更に天塩川流域に孵化場設置の議起り、天塩漁業組合より聘されて適地調査及建設に當り、此の孵化場は一時天塩支場の前身であつた事もあり、新たに美深町に支場の設置を見るに及んで此の孵化

場は格段と衰微した。

日高国染退川（現在の静内川）の上流市父村（現在静内町字御園）に孵化場が設置されたが、技術員として大沢清吉氏が之を担当したが、幾許もなく荒木勝次氏と交代した。

択捉の孵化事業は大体に於てその規模も大きく、経営主体も漁業の将来性を考慮されて熱心これに当り、孵化の技術は主として藤村信吉氏に負うところ

多かつたがしかも殆んど年々兵役前の青年を千歳又は西別に送つて常に新味を失わぬ事にとめられたが明治43

年頃から以降吉田竹太郎、佃梅治、杉本房次郎、西野清蔵、吉田武夫、能渡源蔵、吉田武一、臼井義雄、八木沢喜家、下山卯之松、辻民治、檀山光治の諸氏が次ぎつぎと派遣され教を受けた。この人々は孵化場の中堅となり第一線に活躍された。勿論道内の各孵化場に於ても、同様技術者の養成に留意され、明治42.3年頃より中等水産学校

又は北大水産専門部卒業生を採用して積極的に孵化事業の効果を挙げることにつとめられた。この点から見ても民設孵化場の時代からエトロフでは高等水産教育を受けた人々は、道内の孵化場に比べて多かつた事も特色があつたようだ。

孵化技術上のことは一般的には誰れが行つても稚魚が出来るので之を軽視し、卵の取扱等に対しても徒らに鄭

重に過ぎ、或は粗略に流れる等のために孵化の使命を完了する事が出来ない等のことあるに鑑み、水産試験場の実



大正14年度孵化事業実習生、写真上は実習生、右より岩淵喜多男、富永真佐利、吉田武一、毛利八百蔵、浜畑正男、森某、下は場員、右より波多野安吉、菊池覚助、藤井顕、長峯千山、品川金次郎

習規程に基づき技術者には正式に之を習得せしむることとし、大体10月以降翌年3月稚魚放流開始迄約6ヶ月間に亘り、孵化に関する学術及実地の技術を習得せしめる事とした。大正10年第1回の講習を開始したが、当時水産試験場は小樽市外高島村に在つた時代で（現在の小樽市高島町）此処で孵化に関する学術を授けられ、後半は千歳孵

化場で長期実地の修業を卒へ、一応の資格を得た訳である。爾来別表の如く昭和19年迄継続されたが、昭和9年以後一時中断されている。

昭和9年全孵化場が官庁に移管されると共に、新たに支場に昇格した所もあり今日に於ては技術者も高等教育を受けられた人々も非常に多くなり、一面事務的には一段と煩雑さを加へ、事業場の如きは事実にて主任兼小使的の如き場合あるも、昔と違つて山の中の孵化場でも電燈もあり、子弟教育上からも割合に恵まれている事は幸福といわねばならぬと思う。

戦争によりて一時各孵化場々員の応募されるもの多く、此期間中少数の技術者によりて鮭鱒増殖の為め所謂困苦

欠乏に堪えられた事に対しては、例外なく敬意を表する次第である。其後終戦によりて国後、捉拵の両島に樺太の孵化場は全部接収され、これに所属の技術者は道内に殺到し満腹の状態となりたるも、漸次新陳代謝し、大正時代の人々は最早や大部分は功成り職を退いた人、或は故人となつた人等で、孵化事業の講習を受けた人の数は70人余で、現在事業に従事している人は僅かに20名を出でない。今後水産教育を受けた人々は年々多くなつてくる事は必定であらうが、支場事業場に在つて第一線に活躍する人々の養成を等閑に附する事は出来ないであらう。

次表氏名の判然しないものに対しては更に調査し完全にし度い。

年 度	受 講 者 氏 名	終 了 後 最 初 の 就 職 地	現 在
大正10	瓢 子 正 吉	北見、斜里孵化場	釧路、鶴居事業場
"	多 田 新 蔵	同	退職後不明
"	内 藤 知 孝	根室、伊茶仁孵化場	同
"	阿 部 莊 吉	同標津孵化場	同
"	村 井 義 雄	胆振、利別孵化場	同
"	高 瀬 新 一	国後、二木城孵化場	同
"	吉 田 武 夫	西別孵化場にて受講孵化場に就職せず	孵化場に就職せず
"	吉 田 剛 一	千歳孵化場	(死亡)
(聴講生)			
大正12	臼 井 義 雄	捉拵、比良糸孵化場	十勝、札内事業場
"	池 田 利 三 郎	胆振、利別孵化場	(死亡)
"	吉 田 正 夫	就職せず	就職せず
大正13	三 田 村 栄 四 郎	根室、奔別孵化場	退職後就職せず
"	能 渡 源 蔵	捉拵、老門孵化場	不明
"	森 初 男	就職せず	就職せず
"	中 島 某	同	同
"	外 二 名 氏 名 不 詳		

大正14	浜 畑 正 男	天塩, 天塩孵化場	(死亡)
"	毛 利 八 百 蔵	胆振, 敷生孵化場	退職後就職せず
"	富 永 真 佐 利	根室, 標津孵化場	同
"	岩 洩 喜 多 男	就職せず	就職せず
"	松 本 石 蔵	同	(死亡)
"	吉 田 武 一	択捉, 当路孵化場	{ 退職後, 根室湾中
"	森	就職せず	部漁協組合 不明
大正15	森 五 一	渡島, 上ノ国孵化場	日高, 静内事業場
"	野 口 正 樹	後志, 朱太孵化場	退職後就職せず
"	加 賀 富 三	渡島, 上ノ国孵化場	退職後不明
"	荒 木 要 兵 衛	釧路, 厚岸孵化場	同
"	千 葉 民 三	根室, 標津孵化場	(死亡)
	中 島 齊	根室, 伊茶仁孵化場	退職後不明
	林 農 失	渡島, 知内孵化場	退職後不明
	板 垣 某	就職せず	不明
昭和2	高 木 為 吉	後志, 尻別孵化場	退職後就職せず
"	中 野 鉄 蔵	北見, 幌別孵化場	不明
"	田 中 武 夫	就職せず	同
"	秋 本 政 男	同	同
"	山 口 慶 助	日高, 三石孵化場	退職後不明
昭和3	大 丸 徳 次 郎	釧路, 尾幌孵化場	{ (旧名尾幌)
"	石 山 徳 次 郎	渡島, 厚沢部孵化場	太田事業場
"	平 間 末 吉	就職せず	退職後不明
"	大 西 久 光	釧路, 屈斜路孵化場	不明
昭和4	片 桐 正 吉	日高, 幌別孵化場	羅臼, 事業場
"	嶋 川 肇	十勝, 十勝孵化場	根室支場
"	真 田 忠 蔵	就職せず	不明
"	前 田 篤 篤	同	同
"	杉 山 弘	同	同
昭和5	八 木 沢 喜 家	択捉, 紗那孵化場	北見支場
"	蹴 揚 富 太 郎	北見, 幌別孵化場	幌別孵化場
"	森 三 次 司	就職せず	不明
"	鈴 木 節 司	同	同
昭和6	中 西 義 麻 呂	就職せず	不明
"	竹 山 榎 造	同	同
"	永 沼 四 郎	同	同

昭和7	佐藤三太郎	北見，網走孵化場	湧別事業場
"	板谷茂	北見，藻琴孵化場	退職後不明
"	吉野知道	北見，湧別孵化場	同
"	藤原隆一	就職せず	不明
"	斉藤秀雄	根室，伊茶仁孵化場	同
"	吉田常次	就職せず	同
昭和8	下山知之松	択捉，紗那孵化場	北見，徳志別事業場
"	明石全祐	石狩，上川町自家養魚	継続実施
"	辻民治	択捉，老門孵化場	退職後不明
"	檜山光治	同 ラウス孵化場	同
昭和17	嶋志田一彦	北見，斜里事業場	太田事業場
"	大場遜	十勝，十勝支場	札幌スポーツセンター
"	佐々木京一郎	就職せず	不明
昭和18	小山内恭治	胆振，千歳支場	斜里事業場
"	林成治	北海道水産孵化場	渡島支場
"	友田希世	日高，静内事業場	根室支場
"	平田純正	天塩，天塩支場	天塩支場
"	竹内武三	根室，計根別事業場	中標津事業場
"	永江敬二	同 伊茶仁事業場	阿寒事業場
昭和19	宍戸戦助	北見，藻琴事業場	藻琴事業場
"	渡辺克彦(旧姓市橋)	十勝，十勝支場	天塩支場
"	大原忠朝	北海道水産孵化場	退職後不明
"	小倉武	同	同

大西真平氏

昭和27年6月27日，開庁式の当日，
孵化事業に対する功労者として表彰さ

れた大西真平氏は7月22日，紋別市の
自宅で逝去しました。

葬儀は市葬をもって，7月25日，同
市役所議事堂でしめやかに行われた。

資料紹介

(資料105)

北海道主要河川に浜上する
鮭親魚の年令組成，体長，
体重組成，鱗の中心部の型
分けについて

発行数 400部

1950年～55年迄の6ケ年間，

道内の主要河川に遡上する鮭
親魚の年令組成，体長，体重
組成と54，55の2ケ年間は鱗
の中心部の型の組成について
整理したもの

担当者 調査課，小林技官，
阿部技官，

(資料106)

放流期に達した稚魚の全長

と体重，

発行数 150部

昭和31年に於ける調査資料
で，鮭41ヶ所，さくらます13
ヶ所，からふとます20ヶ所
(5支場，37事業場)で行わ
れたもの。このほか面川での
天然産卵床よりの孵出分も含
まれている。

担当者 事業課，谷口技官